

## 5 新型タバコ使用者への対応【例】

対象者の発言	具体的なサポート言葉（例）	ポイント
<p>「電子タバコと加熱式タバコはどう違うのか。」</p>	<p>電子タバコは、カートリッジ内の液体を気化させ、蒸気にして直接吸い込むもので、ベイプと呼ばれます。国内で認可されている電子タバコは、ニコチンを含まず葉タバコも使用していないため、「たばこ事業法」の規制を受けず、未成年者でも購入可能でたばこ税の課税対象でもありません。</p> <p>しかし、ニコチンを含む電子タバコを個人的に利用することを目的に海外から輸入することは違反になりません。</p> <p>加熱式タバコは、タバコの葉を加熱してニコチンを染み出させて吸うもので、従来のタバコと同様に葉タバコを使用するため、「たばこ事業法」の規制対象品で、未成年者は購入できずタバコ税も課税されます。アイコス、グロー、プルーム・テック等が流通しています。</p>	<p>下記URLには、日本で製造タバコとして販売されている加熱式タバコの情報が掲載されている。呼出されるエアロゾルを平面レーザーにより可視化している資料もある。</p> <p>&lt;参考URL&gt;  <a href="http://www.tobacco-control.jp/heat_not_burn.htm">http://www.tobacco-control.jp/heat_not_burn.htm</a></p>
<p>「加熱式タバコのパッケージにはタールやニコチンを含むと書いていないから吸っている。」</p>	<p>全ての加熱式タバコは、たばこ事業法のパイプタバコに分類されます。パイプタバコは紙巻きタバコと異なり、パッケージにニコチン、タールの表示がありません。しかし、実際にはタールもニコチンも含まれます。ニコチンは依存のもとです。</p>	
<p>「加熱式タバコなら有害性が少ないのではないか。」</p> <p>「加熱式タバコは子どもにも影響しないと思い、室内でも吸っている。」</p>	<p>加熱式タバコは販売されてから間もないため、有害性が少ないかは分かっていません。有害成分が低減されている場合であっても健康影響がないとは言い切れません。</p> <p>また、受動喫煙は、副流煙だけで生じるものではありません。吸った人から吐き出される主流煙（呼出煙）によっても、受動喫煙は十分生じます。</p> <p>加熱式タバコでは、呼出煙が見えづらく、臭いも少ないため分かりにくいのですが、紙巻きタバコと同等量含まれる有害成分が多くあります。お子さんのためにぜひ加熱式タバコもやめてみませんか。</p>	<p>別添チラシ「アイコス (IQOS)、プルームテック (Ploom TECH)、グロー (glo) 『加熱式タバコ』にご注意を!」、 「電子タバコ、加熱式タバコをお使いの方に重要なお知らせ」等も活用する。</p>
<p>「お腹の子どものために加熱式タバコに切り替えた。」</p>	<p>お腹の赤ちゃんのために思って加熱式タバコに変えられたのですね。次は赤ちゃんのために禁煙されてはいかがですか。</p> <p>実は加熱式タバコは従来の紙巻きタバコよりも、ニコチンの血中濃度が上昇する可能性が指摘されています。</p> <p>さらに、加熱式タバコのカートリッジは紙巻きタバコよりも小さいため、乳幼児による誤飲事故が増加しており、国民生活センターから注意喚起が出されています。お子さんが生まれる前にぜひ禁煙してみませんか。</p>	<p>加熱式タバコへの切替えは本人にとってプラスの健康行動であるため、本人の行動は否定せずに続けて正しい情報を伝える。</p> <p>加熱式タバコへの切替えは禁煙へのステップにはならず、むしろ禁煙の妨げになる可能性も指摘されている。</p> <p>公益財団法人日本中毒情報センターの集計 (H30) によると、タバコ誤飲の相談のうち、加熱式タバコの相談が紙巻きタバコの相談を上回った。加熱式タバコの誤飲の9割は5歳以下の小児で、特に1歳前後での誤飲が多かった。</p>
<p>「ニコチンを含まない電子タバコなら良いのではないか。」</p>	<p>ニコチンを含まない電子タバコも無害ではありません。溶液を気化させるために使用するアルコール類が加熱により変性し、多くの有害物質が発生していることが確認されています。</p> <p>問題点は健康面だけでなく、バッテリーの爆発事故も多発しています。使用中の爆発により、死亡事故まで発生しています。</p>	<p>電子タバコによる問題は健康面にとどまらず、死亡事故につながりかねないことを伝える。</p> <p>子どもまで巻き込む恐れがある等、禁煙の必要性を実感できる声かけを行う。</p>